

カムリウミスズメの 海をまもろう!

うみ



地球の70%を占める海。

太古の海で地球上の最初の生命が生まれて以来、
海は様々な生きものを育み、守りつづけてきました。

現在、地球には、約3,000万種もの生きものがいるといわれています。

中でも海には、クラゲ、イカ、エビ、ゴカイから、
魚や海鳥、イルカ・クジラなどの大型哺乳類まで、
実に多様な生きものがすんでいます。

しかし、その中には、私たちが知らないあいだに
姿を消そうとしている生きものも少なくありません。

※生きものごとの大まかな分類(門)の数で比べると、海には陸の
2倍以上が確認されています。



生活のほとんどを大海原で過ごす海鳥は、世界に約330種、四方を海で囲まれた日本では、その3分の1にあたる約100種が確認されています。しかし、近年、海洋環境の悪化などにより、全世界の海鳥の40%が、国内では60%^{*1}が絶滅の危機にあります。

ベニアジサシ

(チドリ目カモメ科)

絶滅危惧Ⅱ類

空中からダイビングして小魚をつかまえる。繁殖期にはくちばしと足が赤く、おなかがバラ色になる。日本では、南西諸島を中心に約6,000羽が繁殖している。



エトピリカ

(チドリ目ウミスズメ科)

絶滅危惧ⅠA類

名前は「くちばしが美しい」を意味するアイヌ語に由来し、オレンジ色の大きなくちばしを持つ。日本では北海道東部にのみ、30~40羽が生息する。



カンムリウミスズメ
という鳥を知っていますか？



アホウドリ

(ミズナギドリ目アホウドリ科)

絶滅危惧Ⅱ類

つばさを広げると2mを超える大型の海鳥。羽毛をとるために大量に捕かくされ、一時は絶滅したと言われていたが、地道な保護活動により2,800羽を超えるまでに回復している。



※1 環境省のレッドリスト^{*2}には、日本で繁殖する海鳥38種のうち、60%にあたる21種が絶滅のおそれのある種として掲載されています。

※2 レッドリスト

絶滅のおそれのある種のリスト。次のようなカテゴリーに分けられています。

絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

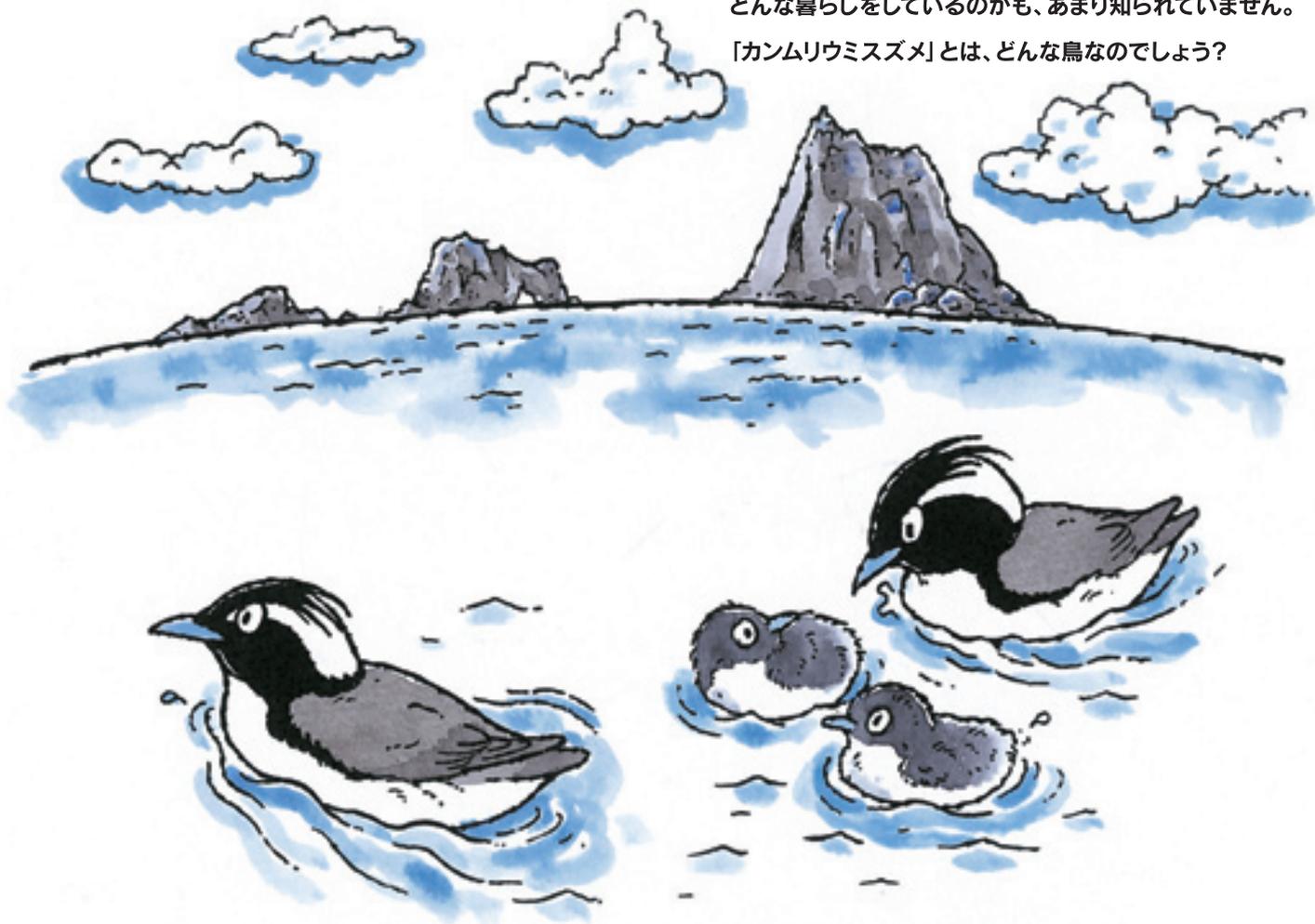
絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

カンムリウミスズメ という鳥を知っていますか？

日本近海のごく限られた島にだけ生息する、全長24センチほどの小さな海鳥も絶滅の危機に瀕しています。その名はカンムリウミスズメ(冠海雀)。現在推定される数は、宮崎県の枇榔島、伊豆諸島を中心にわずかに5,000羽ほどです。子育ての時期をのぞいて、一生のほとんどを海の上で過ごし、私たちが目にする機会はほとんどないため、その存在も、どんな暮らしをしているのかも、あまり知られていません。

「カンムリウミスズメ」とは、どんな鳥なのでしょう？



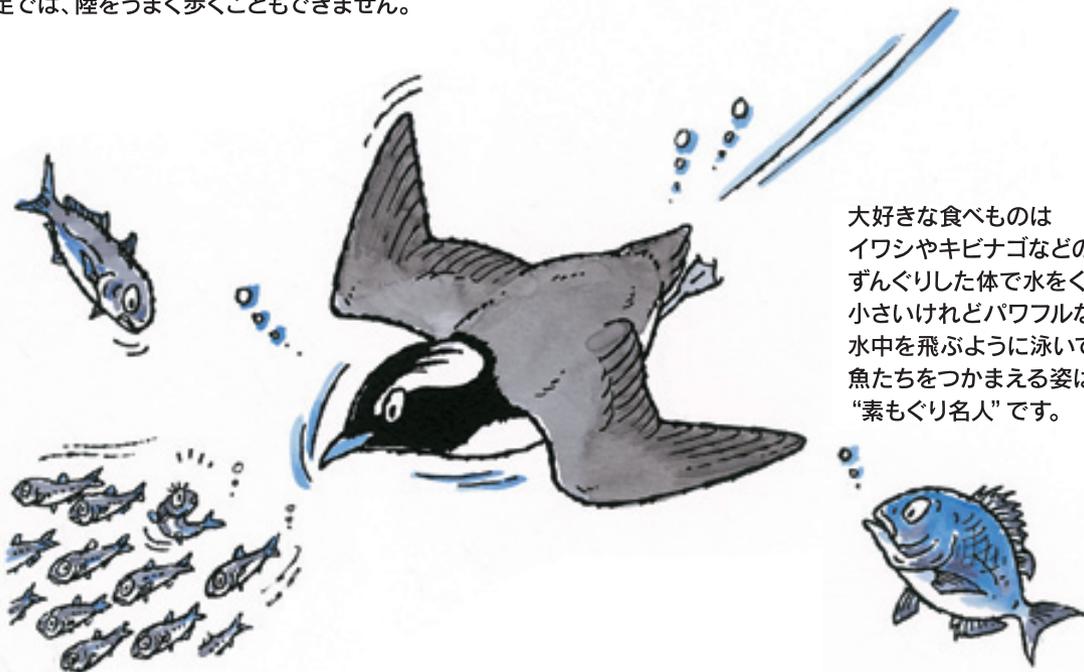
カムリウミスズメって どんな鳥？



でも……!

海では、オールのような足を使って、
荒波をものともせず
すいすい泳ぐ、“波乗り名人”!

外見は黒と白のツートンカラーで、ペンギンを小さくしたようです。
特徴は、頭についている冠かんむりのような羽飾り。
つばさが短く体が重いので、空を飛ぶことは得意ではありません。
また、水かきのある足では、陸をうまく歩くこともできません。



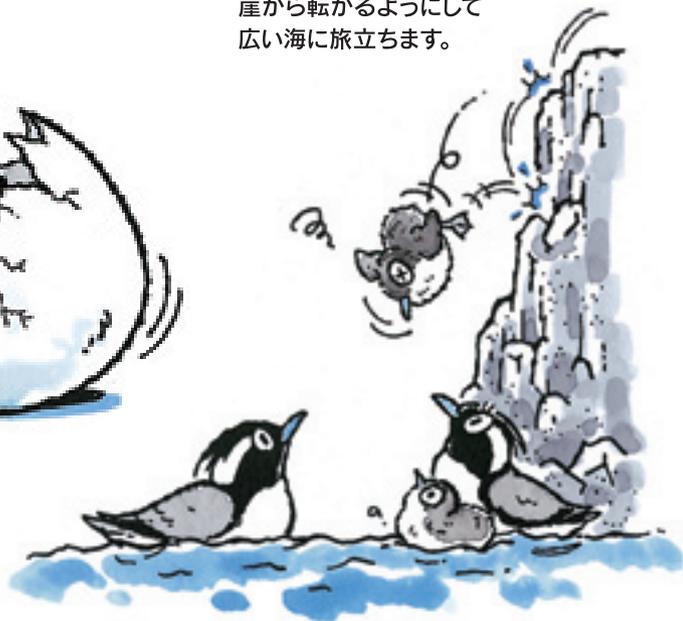
大好きな食べものは
イワシやキビナゴなどの小さな魚。
ずんぐりした体で水をくぐり、
小さいけれどパワフルなつばさで水をかき、
水中を飛ぶように泳いで
魚たちをつかまえる姿はまさに
“素もぐり名人”です。

海で暮らすカンムリウミスズメが
陸にあがるのは、子育ての時だけ。
人が近寄れない島の崖や
急な斜面の岩のすきまに、
卵を2個産みます。



歩いたり、飛んだり、陸上生活が苦手な
カンムリウミスズメにとって、
子育ての期間は、外敵に襲われやすく
最も危険な時期です。
一刻も早く海の生活に戻るため、ヒナは、
生まれてから1~2日で巣から離れ、
崖から転がるようにして
広い海に旅立ちます。

卵は体のわりに大きく、
ニワトリの卵をひとまわり
小さくしたくらい。
オスとメスが協力しあって、
交代で、1ヶ月もの間
あたためます。



カンムリウミスズメは、
一夫一妻といわれています。

カンムリウミスズメが生きていくためには、
食べものの小魚がたくさんいる豊かな海と、
安心して子育てのできる場所が必要です。**しかし今……!**

生息環境の悪化と カンムリウミスズメの危機

私たち人間は、自然から様々なエネルギーや食料を得て生活しています。しかし近年、人間の活動の急速な拡大が自然環境に与える影響は、深刻な問題となっています。特に、野生動物の生息地である海や川、森林、草原、湿原などが開発や汚染により損なわれることは、多くの生きものを絶滅に追いやり、生物多様性を損なう原因になっています。カンムリウミスズメも、このような問題に直面しています。

※生物多様性：生きものの種類や、種内の個性、生きもの同士のつながりからなる生態系がバラエティ豊かに存在すること。



座礁したタンカー



油汚染で死んだ海鳥

油などによる海洋汚染

タンカー事故などで海に大量の油が流れ出ると、カンムリウミスズメのような鳥は、体に油が少し付いただけでも、命を落としてしまいます。特に、繁殖地の周辺で事故があると、一度に多くの親鳥やヒナ、卵にまで影響が及び、カンムリウミスズメにとって大きな打撃となります。

繁殖地で増えている新たな敵

カンムリウミスズメが子育てをしている島では、カラスやネズミが増え、卵やヒナ、時には親鳥が食べられるといった被害



ゴミで汚れた海岸



食べられた卵

が出ています。カラスは、人間が残したゴミや、釣り人のまき餌などに引き寄せられて増えています。ドブネズミやクマネズミは、もともと島にはすんでおらず、島に来る人間の船から入り込んできた新たな敵です。

このほかにも、魚を捕まえるために海中に設置される網に、カンムリウミスズメが誤ってかかり死んでしまう問題があります。また、私たちの日常生活の中で出るゴミや排水は、川から海へと流れ、彼らの暮らす環境を悪化させています。

今、地球上にわずか5,000羽ほどしかいない、カンムリウミスズメ。人間が原因で絶滅させてしまうことは避けなければなりません。

地球上では、長い歴史の中で進化してきた多様な生きものが、「食べる」「食べられる」というつながりの中で暮らしています。カンムリウミスズメも、食べものとなる魚をはじめ、海に暮らす様々な生きものにつながりがあります。カンムリウミスズメがいなくなると、このつながりが崩れ、海洋生態系にひずみ生まれ、ひいては私たちに恩恵をおんげいをもたらす豊かな海が健全な状態ではなくなっていくと考えられています。長い地球の歴史の中で生まれた種とその種がもつ“つながり”は、一度失われると、私たちのどんな科学技術をもっても、取り戻すことはできないのです。

なぜ、カムリウミスズメを守らなければならないの？

海洋生態系からみた、海鳥の役割

海洋生態系は、海にすむ多様な生きものの複雑なつながりあいの中で成り立っています。

中でも海鳥は、小さなプランクトンから、魚、イカなど様々な生きものを食べており、生態系ピラミッドの上の方に位置しています。「海鳥を守る」ということは、海鳥の食べものになる生きものを守るとともに、生きもの同士の“つながり”すなわち海の生物多様性を守ることになります。また、海鳥は、世界中の海に広く分布し、陸上の鳥に比べて寿命が長いことから、海鳥をバロメーターとして見守っていくことで、海洋環境の変化を知ることができます。



魚を食べるウミガラス



日本の固有種、世界的にも貴重な海鳥「カムリウミスズメ」

【主な繁殖地】

カムリウミスズメは、世界でも日本近海のみならず希少な海鳥であり、日本国内だけでなく世界的に保護の必要な種として、IUCN（国際自然保護連合）により絶滅危惧種に指定されています。

生息域である海に囲まれた日本は、率先してその保護に取り組んでいかなければなりません。



日本野鳥の会は、カムリウミスズメを守る活動に取り組みます

日本野鳥の会は、野鳥とその生息環境の保全を通じて、そこに暮らす多様な生きものつながりを守っています。1934年の設立以来、タンチョウやシマフクロウなど絶滅の危機に瀕する野鳥が暮らす湿地や森林の保護に力を入れてきました。そして今後、近年の海洋における生物多様性の危機的な状況を背景に、カムリウミスズメの保護にも力を入れていきます。カムリウミスズメをはじめ、海鳥にはまだわかっていないことが多く、彼らを守るにはまず彼らの暮らしを知らなければなりません。日本野鳥の会は、カムリウミスズメをシンボルに、その生息環境である海を守り、海鳥と彼らを取り巻く海の生物多様性を守っていきます。



カムリウミスズメ (チドリ目ウミスズメ科)

Synthliboramphus wumizusume

IUCN (国際自然保護連合)

レッドリスト・絶滅危惧Ⅱ類

環境省レッドリスト・絶滅危惧Ⅱ類

国指定天然記念物

カムリウミスズメを 守る活動

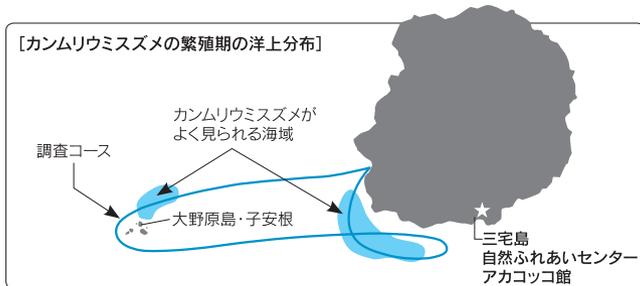
伊豆諸島には現在約1,000羽のカムリウミスズメが生息しているといわれています。日本野鳥の会では、三宅島自然ふれあいセンターを中心に、1993年の施設オープン以来、カムリウミスズメを守るための調査・普及活動に取り組んできました。

カムリウミスズメを調べる活動（調査）

①繁殖地への上陸調査

生態がほとんど知られていない、カムリウミスズメ。私たちは、まず、彼らの繁殖状況を調べることから始めました。繁殖地である大野原島・子安根には、船を着けることができないため、上陸するには潮流の強い海を数十メートル泳ぎ、波が叩きつける大岩を登るなど困難を伴います。

2009年4月、14年ぶりに行った調査では、9巣で卵を抱いている様子が確認できました。また、残念なことと同じ調査で、何者かに食べられた死体と、卵も見つかりました。カムリウミスズメが安心して子育てできるように、この原因をさぐり、大野原島をどのように守っていくのか考えることが、これからの課題です。



②漁船を使った、洋上調査

繁殖地に上陸できる機会は限られているため、漁船を使って洋上にいる数を毎年調べ、その海域にすんでいるおおよその数を把握しています。これまでの調査から毎年多少の増減はあるものの、三宅島周辺には少なくとも200～300羽のカムリウミスズメがすんでいることが分かってきました。



カムリウミスズメについて知ってもらう（普及）

私たちは、みなさんにカムリウミスズメに関心を持ってもらえるように、カムリウミスズメを観察するエコツアーや、講演会、海のクリーンアップ活動などを行っています。一人でも多くの方に彼らの置かれている環境を見て・知っていただき、みなさんと一緒に彼らのすみかを守る活動を進めていくことが私たちの願いです。

モイヤーさんが守った鳥

三宅島でのカムリウミスズメの保護の歴史は古く、1950年初頭にさかのぼります。朝鮮戦争の只中、カムリウミスズメの繁殖地の1つである大野原島は、米軍の爆撃演習地となりました。軍務で訪れていたジャック・モイヤーさんは、希少なこの鳥を守るため、大統領に演習中止を訴える手紙を書き、実際に爆撃演習をやめさせたというエピソードがあります。



ジャック・モイヤー
1952年に三宅島を訪れて以来、海水魚の生態研究や子どもたちへの自然教育に尽力。三宅島の自然保護に貢献する。2004年に74歳で逝去。

あなたにも できることがあります!

行こう! カムリウミスズメに会いに来ませんか? 三宅島へエコツアー!

三宅島では、5月に「カムリウミスズメ・エコツアー」を開催しています。漁船に乗って、カムリウミスズメをはじめ、大海原に生きる海鳥の姿を観察します。詳細はアカコッコ館(連絡先、URLは21ページ)へ



探そう! あなたも新生息地の発見者? カムリウミスズメを見つけよう!

海のレジャーなど、洋上で、カムリウミスズメの姿を見つけたら、ぜひ、私たちに教えてください。みなさんの目撃情報が、将来のカムリウミスズメ保護の貴重なデータになります。

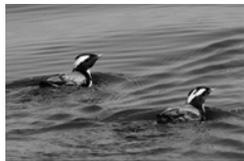
詳細は <http://www.wbjs.org/nature/kisyousw/>
携帯の方はこちらから
http://www.birdfan.net/m/find_sw.html



応援しよう!

カムリウミスズメを守る、 仲間になってください!

カムリウミスズメを保護する取り組みを、ご寄付や日本野鳥の会会員になってぜひ応援してください。みなさんの応援がカムリウミスズメを救う大きな力になります!



みなさまのご支援が、カムリウミスズメと 海の仲間を守る大きな力になります。

下のハガキを切り取り、ご支援いただける項目□にチェックして、投函してください。

①一口500円のご寄付で

カムリウミスズメのストラップ「OKANMURI」をひとつプレゼントいたします。

ストラップに () 口分、申し込みます。



②一口1,000円のご寄付で

カムリウミスズメのピンバッジをひとつプレゼントいたします。イラスト・デザインは、この冊子を描かれた関口尚さんです!

ピンバッジに () 口分、申し込みます。



③一口1万円のご寄付で

GINZA TANAKA特製カムリウミスズメブローチ(トップ部分純銀製、特製箱入り限定1000個)をひとつプレゼントいたします。

※GINZA TANAKA 店頭での取り扱いはありません。

ブローチに () 口分、申し込みます。



④野鳥グッズを購入して応援する

カムリウミスズメをモチーフにしたTシャツなど、各種グッズができました。売上はカムリウミスズメをはじめ、野鳥の保護活動に使われます。

野鳥グッズ掲載の「BIRDSHOPカタログ」の送付を希望します。

※ストラップ、ピンバッジに申し込まれた方には、現物とお振込み用紙をお送りします。到着後2週間以内にご寄付のお振込みをお願いいたします。

ブローチを申し込まれた方には、お振込み用紙をお送りし、ご寄付をお振込みいただいた後に現物をお届けいたします。ブローチは数量限定のため、在庫がなくなり次第プレゼントは終了となります。詳細はお問い合わせください。

問合せ先: 日本野鳥の会 会員室 TEL: 03-5436-2630



入会や寄付、野鳥に関するグッズ購入はオンラインでも受け付けています。ぜひ日本野鳥の会に入会して、私たちの自然保護活動を応援してください。

<http://www.wbsj.org>

郵便はがき



差出有効期間
平成23年
8月31日まで

1 4 1-8 7 9 0

1 0 3

東京都品川区西五反田3-9-23
丸和ビル

日本野鳥の会
会員室 行



名前

住所

電話番号

本冊子をお読みになつての感想をおきかせください。

三宅島自然ふれあいセンター アカコッコ館(三宅村立)について

アカコッコ館では、日本野鳥の会のレンジャーがカムリウミスズメや三宅島の自然情報をご案内しています。ぜひ、遊びに来てください。



開館時間 9:00~16:30

休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始(12月29日~1月3日)

TEL 04994-6-0410

利用料金 200円(中学生以下、65歳以上無料)

住 所 東京都三宅島三宅村坪田4188番地

より詳しい情報は <http://www.wbsj.org/sanctuary/miyake>
ホームページへ!!

交通案内 東海汽船(夜行、所要時間約6時間)または航空便(1日1便、所要時間約1時間)をご利用ください。

東海汽船ホームページ <http://www.tokaikisen.co.jp/>

全日空ホームページ <http://www.ana.co.jp/>



カムリウミスズメの 海をまろう!

監修:山本 裕(日本野鳥の会)

企画・執筆:岡本裕子/篠木秀紀(日本野鳥の会)

イラスト:関口 尚 デザイン:安田真奈己

写真提供:鈴木義晴/田島一仁/寺沢孝毅/中村 豊

編集:岡本裕子/掛下尚一郎(日本野鳥の会)

発行:財団法人 日本野鳥の会 普及室

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル

TEL:03-5436-2622/FAX:03-5436-2635

発行日:2009年9月1日



この冊子は競艇の交付金
による日本財団の助成金
を受けて作成しました。



三宅島の豊かな海では、カンムリウミスズメと
たくさんの仲間たちが暮らしています。
私たちの子どもや孫に、さらにその先の世代に、
生きもののにぎわう海を残していけるかどうかは、
私たち一人一人にかかっています。



カツオドリ

ハヤブサ

オオミズナギドリ

ウミネコ

トビウオ

アオウミガメ

マンボウ

アオリイカ

カツオ

チョウチョウ
ウオ

ミナミハンドウ
イルカ

キビナゴ